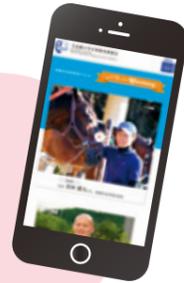


Webサイトのお知らせ

学生ボイスなども充実!
会報誌と連動して、
充実したコンテンツをお届けします!

今すぐアクセス!



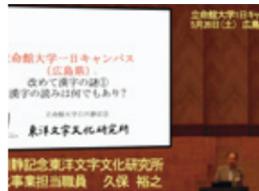
父母教育後援会の公式サイトでは、会報と連動したコンテンツを展開しています。
学生ボイスなども豊富に掲載しているのでぜひアクセスしてみてください。

pick up
1



学生メッセージ
誌面に登場した学生
の動画によるメッ
セージをご覧ください。

pick up
2



アカデミック講演会
Movie
日本全国で開催され
たアカデミック講演会
の様子を動画でご覧
いただけます。

pick up
3



アカデミック連載企画
「山城の風土記」
日本史・宗教史がご
専門の本郷教授によ
る連載企画を毎月更
新しています。

アクセスはこちら!

父母教育後援会
<http://www.ritsume-i-fubo.com/>
立命館大学HP→保護者の方

立命館 父母教育後援会

検索



■会員の住所変更について

本誌は、学生が学部へ届け出ている保証人住所宛に送付しています。
保証人住所を変更される場合は学生本人による手続きが必要です。
学びステーションまで学生証を持参の上、手続きするようお子さまにお伝えください。
※最近、立命館や関係団体等の名刺を利用した悪質なビジネス等が横行しております。
父母教育後援会は、会員の照会を学生には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。



2019年度
春号

特集1

グローバル教養学部誕生

特集2

立命館の課外自主活動

ゼミナール訪問

クラブ&サークル Watching

知への扉 ~教員インタビュー~

キャンパス探訪

卒業生からの手紙

あるある R 探検隊

山城の風土記

読者の声



学長からのごあいさつ

新入生のご父母の皆さま、
このたびはおめでとうございます。

父母教育後援会のご父母の皆さま、平素より立命館大学に
対しまして、ご理解ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

先を見通すことが困難な時代において、新しいかたちの知を
探り、創りあげ、そして社会へ届け、後世につたえ、人類に貢献
する。立命館大学はそのような存在でありたいと考えています。
喜び、感動する体験を通じて、学生一人ひとりが、変化の中から
新たな意味を見出すことができる感性を育み、また自らの夢の実
現に邁進できるよう、全力でサポートします。

父母教育後援会は、関西はもちろん、全国各地で様々な行事
を企画・運営しています。ご父母の皆さまにおかれましては、是非
ご参加いただき、大学を身近に感じていただければ幸いです。

ご父母の皆さまに「立命館大学に入学させて良かった」と
思っただけの大学創造を進めてまいります。今後とも、立命
館大学および本会へのご理解ご協力を賜りますよう、お願い申し
上げます。



学校法人立命館総長
立命館大学長
仲谷 善雄



OIC

大阪いばらきキャンパスに
2019年4月開設

Global Liberal Arts

2019年4月

アジア発、グローバル時代のリベラルアーツ

グローバル教養学部誕生

Contents

特集1
P2 グローバル教養学部誕生

特集2
P5 立命館の課外自主活動

- P11 ゼミナール訪問
- P15 クラブ&サークル Watching
- P17 知への扉 ~教員インタビュー~
- P19 キャンパス探訪
- P21 卒業生からの手紙
- P23 あるある探検隊
- P25 山城の風土記
- P26 読者の声

DDP
デュアル・ディグリー・プログラム

日本人 留学生
3:7
日本人30名:留学生70名

All English
全クラス英語開講

Japan

「スーパーグローバル大学」のその先へ。 フラッグシップとなる新学部が誕生！

立命館大学は、2014年に文部科学省に
「スーパーグローバル大学」に選ばれた日本有数の国際大学です。

その立命館大学が国際化の新展開として

2019年4月にグローバル教養学部を大阪いばらきキャンパスに開設します。

世界の大学ランキングで常にトップクラスに入るオーストラリア国立大学と協定を結び、

「グローバル教養学×アジア太平洋学」という二つの学位を取得できる

デュアル・ディグリー・プログラムを通じて、

次代を担うグローバル人材の育成に取り組みます。

Australia

Special Interview

世界有数の国際大学と歴史的な提携を結び、 立命館の国際化は第二章を迎えます。

立命館大学とオーストラリア国立大学が共同学士課程を開設し運営する作業に入ることを含む覚書に調印したのが2014年。以来、グローバル教養学部の立ち上げに奔走し、初代学部長に就任した金山教授に、開設にかける思いとこれからの展望について聞きました。

国際教育の新しいモデルを提示し、立命館の名を世界に轟かせたい。

この度、大阪いばらきキャンパスに開設したグローバル教養学部は、デュアル・ディグリー・プログラムを教育課程に全面に組み込んだ日本初の学部であり、これにより文部科学省から「スーパーグローバル大学」に認定された立命館大学の国際化は、次のフェーズに移行すると確信しています。提携を結んだオーストラリア国立大学は世界に名だたる名門大学であり、とりわけ国際関係学の分野では世界トップクラスに位置づけられています。すべての学生がそのオーストラリア国立大学への1年間の留学を目指し、「グローバル教養学×アジア太平洋学」という二つの学位を取得するのがこの学部の最大の特徴です。

カリキュラムの特色としては、日本での授業もAll English、すべて英語での開講となっています。もちろん学ぶのは語学だけではなく、グローバル化の時代に求められる新しいリベラル・アーツです。カリキュラムの軸となるのは、グローバルな文脈の中で世界の横の広がり学ぶ「Cosmopolitan Studies」、人類の歴史と歩みを縦に学ぶ「Civilization Studies」、そして現代社会の変容・変革に対してタイムリーにアプローチする「Innovation Studies」という3つの柱を設定しています。また、世界中から集まった学生と学ぶ多文化環境も魅力で、生まれた国・地域、話す言語、考え方や価値観などが異なる学生たちが活発にコミュニケーションを展開することで、国際社会で求められるコミュニケーション能力や問題解決能力などを実践的に身につけることができます。

この春に入学した1期生は、「平和と民主主義」という立命館大学の教学理念に共感し、「世界を変えたい」という高い志を持った学生たちが集まってくれました。4年間を通じて、国際社会で活躍するために必要な素養を身につけ、世界が抱える様々な課題を解決できる人材へと育ててくれると期待しています。

読者である保護者の皆さまには、いつも立命館大学の動きに関心を寄せていただき、多大なるご支援をいただいていることに心より感謝を申し上げます。私たちは小さな学部ですが、立命館大学の国際化の象徴として、保護者の皆さまに誇りに思ってもらえるような学部になることを目指しています。どうかこれからも温かく見守っていただけたら幸いです。



学部長
金山 勉教授

クラブ&サークルだけじゃない!

立命館の 課外自主活動

Pick up 01 **ピア・サポート**

学生同士が学び合い、支え合う。

立命館大学の「ピア・サポート」は、学生が学生を支える独自のシステムで多様な分野で活発に活動しています。日本全国、そして世界から集まった学生たちが共同作業を通じて、視野を広げ、共に成長する絶好の機会となっています。



オリター・エンター活動

case 01 **学生×学生**



スポーツ健康科学部
大岡 拳史郎さん



オリター同士は仲が良く、他学部との交流もあり、人脈が広がっています。

憧れの先輩みたいになりたくて、今度は自分が支える側に。

立命館大学には先輩学生が新入生の生活面をサポートするオリター・エンター活動があり、私はスポーツ健康科学部のオリター団を務めています。私自身、群馬県から一人で滋賀県に来て、入学当初は友人ができるかどうか不安だったのですが、オリターの先輩が新入生同士が打ち解けるためのアイスブレイクをしてくれたおかげでスムーズに学生生活に馴染むことができました。また、オリターの先輩たちが活き活きとしている姿に憧れて、私もオリターになって、今度は後輩たちをサポートする役割をしています。



・ここがポイント

オリター団には執行部があり、学生が自主的に組織を運営しています。後輩のサポートだけでなく、組織マネジメントやチームワークを実践的に学ぶ機会となっています。

RM (レジデント・メンター)

case 02 **学生×留学生**



寮長
国際関係学部
池下 菜都美さん



世界中から集まった留学生と仲良くなって、自分の世界も大きく広がりました。

国際寮で留学生と暮らしを共にして、留学ライフをサポートしています。

私たちRMは「留学生の小さなお母さん」のような存在で、国際寮で留学生と共に生活しながら、日本での生活に関するレクチャーや、病院や銀行など日本語では難しい手続きのお手伝いなどをしています。私たちが住む寮は留学生180名に対して13名のRMがいて、毎週ミーティングや週報を作成しており、何かトラブルがあったときはすみやかに国際課に報告しています。また、ウェルカムパーティやクリスマスなどのイベントも実施しており、留学生が日本での生活を充実したものにできるよう、様々な面からサポートしています。

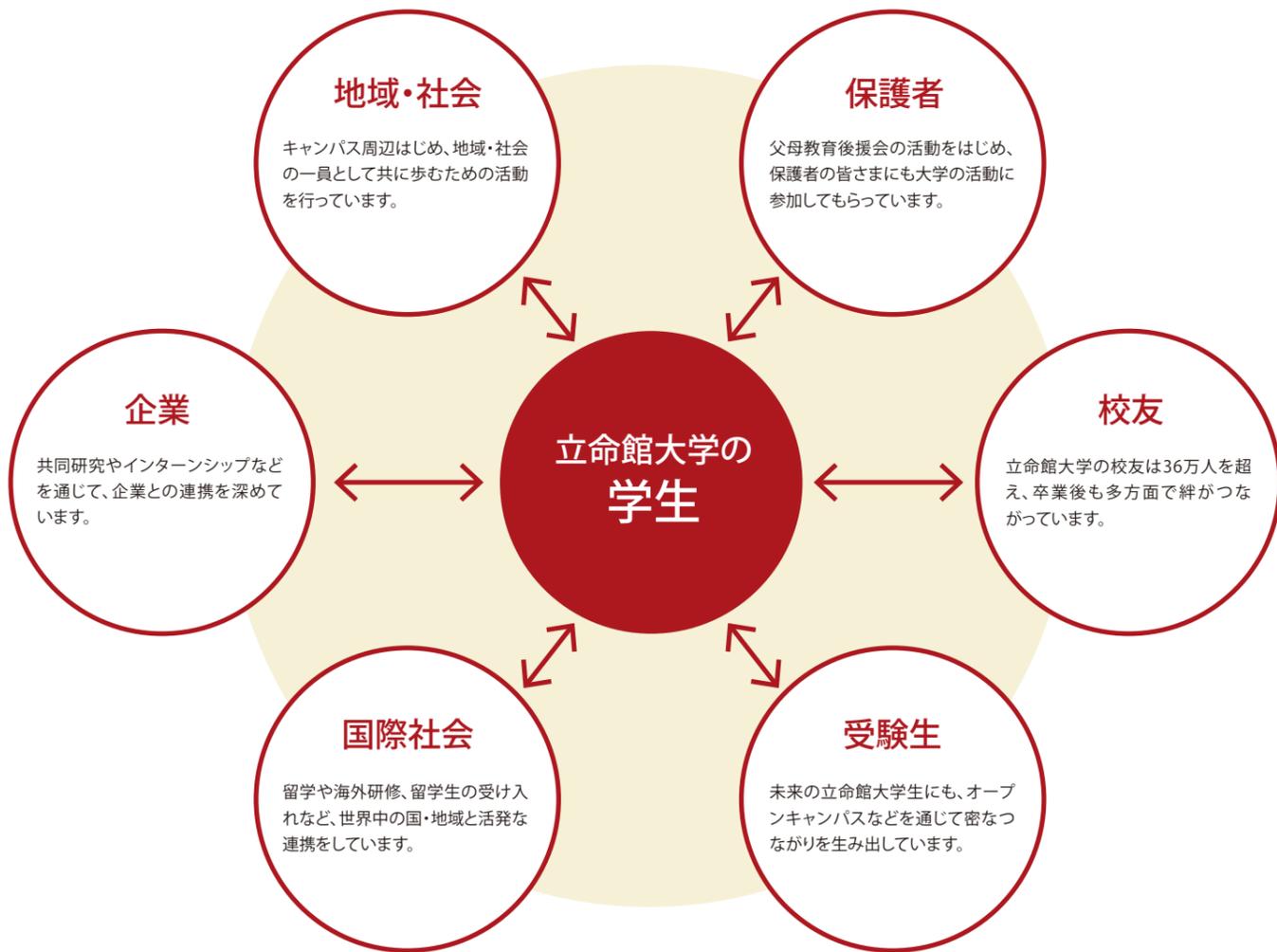


・ここがポイント

RMとしての生活は、勉強と発見の連続です。自立への素晴らしいステップになるので、国際交流に興味のある学生はぜひRMを体験してほしいと思います。

学外の人やフィールドを通じて成長する。

立命館大学では、キャンパスが立地する京都、滋賀、大阪の周辺地域との連携を深め、地域と共生する取り組みを行ってきました。2015年に開設した大阪いばらきキャンパスは門や塀のない地域に開けたキャンパスで、隣接する公園には地域の子どもたちがいつも遊びに来ています。他にも公開講座や共同研究などで地域住民や企業と連携を深める活動は様々な方面で広がっており、開かれた大学として社会に貢献することを大切にしています。



地域貢献活動の例

スクールガード活動

アメリカンフットボール部と男子バスケットボール部の学生が、びわこ・くさつキャンパスの近隣小学校の登校を見守る活動を実施しています。



いばらき×立命館DAY

大阪いばらきキャンパスで地域交流イベントを開催し、学生によるパフォーマンスや体験イベントを実施。約16,000人の来場者が訪れ、学生との交流を楽しみました。



立命館大学 体育会ボランティア団体 AVA (Athlete Volunteer Association)

case 03 学生×地域社会



副代表 産業社会学部 福島 紘一さん
代表 文学部 根上 一茂さん



年度末には報告会を実施し、よりよい活動をするための意見交換を行っています。

地域への貢献活動を通じて、住民の皆さまとのつながりを。

私たちAVAは、もともとは野球部の学生がバイクでグラウンドに通う際に、近隣住民の皆さまにご迷惑をおかけしないように「交通安全委員会」としてマナー講習などの活動をする団体として始まりました。それが他の体育会クラブにも広がり、今ではAVA所属の学生約80名に加え、体育会に所属する学生やそれ以外の有志の学生が参加しています。活動は多岐に広がっており、地域の清掃活動、防災訓練、夏祭りへの参加、子どもたちへのスポーツ教室の開講など、様々な取り組みを通じて地域との連携を深めています。



・ここがポイント

人や地域に貢献することが私たち学生にとっても学びの機会となっています。今後は成果を数値化するなど、より体系的な連携の仕組みを作り上げたいと考えています。

入試広報学生スタッフ

case 04 学生×受験生



副統括 政策科学部 鳥取 歩実さん



学部や学年を越えて交流できるので、今では各キャンパスにたくさんの友人ができました。

企画の立案から当日のおもてなしまで、私たち学生が主体となって行っています。

私たち入試広報学生スタッフは、「すべては受験生のために」を合言葉に、オープンキャンパスの企画・運営などを行っています。受付、個別相談、キャンパスツアーなどの当日のおもてなしや、展示物の作成などすべて学生の手作りで用意しています。例えば、看板を作るという案が出たら、何のために必要で、予算はどれくらいかかるのかなど、企画書にまとめて職員の方にプレゼンテーションをし、認められたら実際に作るプロジェクトが動き出します。まるで企業の仕事みたいで勉強になることがたくさんあります。



・ここがポイント

各キャンパスにスタッフがいて、大阪いばらきキャンパスだけでも総勢150名の大所帯。活動を通じて、実践的な組織マネジメントを学ぶことができます。

がんばる学生を応援する制度が充実。

立命館大学では、正課外の活動を通じて成長する意欲ある学生を奨学金や助成金、表彰制度などで応援しています。課外自主活動団体への支援と自主的な学び(=正課以外の学びに自主的に取り組む個人・集団向け)のものがああります。

■課外での成長を支援する奨学金・助成金

課外自主活動団体支援

課外自主活動団体の目標達成や、社会貢献などを支援する制度です。

活躍が目覚ましいクラブや、学術的、社会的に意義のある学生のプロジェクト活動などに対して助成金を給付しています。重点強化クラブを支援する<重点強化助成>、高大連携や国際交流、地域貢献などに取り組む学生を支援する<プロジェクト助成>、課外自主活動団体の備品購入や交通費を助成する<基盤活動助成>があります。

自主的な学びの支援

自主的に学ぶ学生・団体を奨学金・助成金で支援しています。

個人で社会の課題を解決することに挑戦する学生を支援する奨学金(最大30万円)、アスリートやクリエイターとして高いレベルで活躍する学生を支援する奨学金(最大年額100万円)、正課外で学びのコミュニティを形成する団体を支援する奨学金(1集団につき最大50万円)などがあります。

表彰制度等

優れた実績を残した個人・団体を表彰し、奨励金を給付しています。

クラブ・サークル活動をはじめとする課外自主活動において、立命館大学の文化の担い手となる活動、あるいは地域・社会の発展に寄与する活動において、優れた実績をあげ、さらに国内外での活躍が期待される個人、または団体を表彰する制度です。大学による表彰と学生部長による表彰があります。

立命館大学課外自主活動団体助成制度<重点強化助成>
課外自主活動の高度化および活性化を牽引する団体(重点強化クラブ)が、その目標を達成するために取り組む活動を支援する制度です。

立命館大学課外自主活動団体助成制度<プロジェクト助成>
各団体の活動内容を活かし、課外活動の高度化と活性化を促進する活動に積極的にチャレンジする団体を支援する制度です。

立命館大学課外自主活動団体助成制度<基盤活動助成>
課外自主活動団体が目標を達成するうえで必要となる日常の活動基盤を助成する制度です。

立命館大学+R校友会未来人材育成奨学金(成長支援)
様々な社会問題の解決に資する個人での活動であって正課外の自主的な活動を支援します。

立命館大学アスリート・クリエイター育成奨学金
スポーツ、文化・芸術および研究分野において世界・日本のトップを目指す学生を支援します。

立命館大学学びのコミュニティ集団形成助成金(正課外自主活動)
高い成果の達成が期待されるものにつき、活動経費の一部を助成することにより、自主的な活動の活性化をはかっています。

立命館大学学びのコミュニティ集団形成助成金(正課外プログラム)
正課外プログラムへの参加を奨励し、学生の学びと成長を促進する助成制度。被災地をフィールドとしたプログラム等を実施。

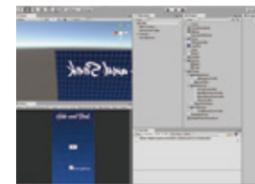
個人:立命館大学個人表彰
スポーツ、学術・文化・芸術で全国上位での活躍、国際大会への出場、あるいはそれに準ずる成績を修めた学生が対象です。

団体:立命館大学団体表彰
スポーツ、学術・文化・芸術の全国大会で入賞(ベスト4以上)の活躍をした団体が対象です。

個人・団体:学生部長表彰
上記以外で優秀な成績や目覚ましい活躍をしたと学生部長が認めた個人・団体が対象です。



情報理工学部
斉藤 俊介さん



スマートフォンアプリの開発画面。成果発表に向けて精度の向上に挑戦しています。

GPSを使った自転車追尾システムで駐輪場の悩みを解決します。

びわこ・くさつキャンパスの広大な駐輪場から、自分の自転車の場所を探し出せるスマートフォンアプリ「ハイド・アンド・シーク」を開発するというプロジェクトで採用されました。自転車で通う友人が困っていたことから着想を得て、私自身がスマートフォンアプリの開発に挑戦してみたかったので、奨学金に応募しました。奨学金のおかげで開発環境を整備することができたので助かっています。まだ実装までには精度の向上などの課題が残っていますが、必ず期間内に結果を出したいと思います。



・ここがポイント

アプリ開発の他にも、英語でのプレゼンテーション技術向上に関わる活動で、「学びのコミュニティ集団形成助成金(正課外自主活動)」に採用されました。



Student Success Program

立命館 SSP 検索

※詳細はSSPのホームページをご覧ください。

学生生活の充実を多面的に支援！

SSP(Student Success Program)は、学生一人ひとりが正課と課外すべての学生生活を通じて学びの主体として自立し、最大限の成長を遂げられるようになるための学生支援です。学生生活の充実に向けた取り組みを実施しています。

自立支援

学生一人ひとりが最大限の「成長」を遂げられるよう学びの主体として自立していくための学生支援を充実させています。

- ・個別支援
支援コーディネーターが、学生個人の目標や計画を確認し、伴走支援を実施しています。
- ・集団支援
支援コーディネーターによるセミナー開催や、SSPピア・サポーターとの意見交換の場を設けるなどして集合研修型の支援を実施します。
- ・入学前支援
早期に決定する特別入試合格者(文化・芸術、スポーツ)を対象に入学前プログラムを提供しています。

成長支援

キャリア養成、リーダーシップ養成、地域・社会貢献、国際交流といった視点で学生の成長を促す支援を行っています。

- ・キャリア養成
卒業生との意見交流や入学から卒業までのポートフォリオ作成などを通じて、キャリア形成に関する意識や視点を養います。
- ・リーダーシップ養成
クラブ・サークルが適正な組織運営や会計管理ができるよう、そのサポートとなる研修プログラム(リーダーシップ養成、コミュニケーション強化、チームマネジメント、ハラスメント対応等)を実施しています。また、クラブ・サークル活動のなかで各人が成長を実感できるよう、「振り返り(内省)の機会」を設けて、強み・弱みの分析や自身の成長度合いの可視化、今後の活動に対するモチベーション向上を図る取り組みも行う予定です。



嘉門 優
法学部 教授

刑法が社会で果たすべき役割について研究。被害者の立場、冤罪の可能性など、多様な視点から犯罪と刑罰について考え、国際情勢も参考にしながら刑法のあるべき姿を探っている。

テーマ 「刑法学を通じて社会問題を考える」

嘉門 優ゼミ

●衣笠キャンパス 法学部

犯罪と刑罰にかかわる社会問題の解決策について、ゼミ生同士でディスカッションを行い、論理的な思考力を磨いている。その成果が、他大学とのゼミナール大会で準優勝という形で結実。また、夏休みには全員で刑務所見学を行い、犯罪者処遇の実際を調査した。

ゼミ生VOICE

芦田 絵恋さん

ゼミ旅行で行った刑務所見学が印象に残っています。受刑者のリアルな生活環境が伝わってきました。将来は法曹を目指しています。

井門 世梨花さん

交通犯罪を題材に、厳罰化には犯罪抑止効果があるのか、厳罰化の限度はどこにあるのかといったことを研究しています。

井上 智博さん

他大学で開催された法律討論会で2位に選ばれたのがうれしかったです。少年法を題材に、仲間と検討に検討を重ねた甲斐がありました。

宇栄原 尚さん

特殊詐欺罪における受け子の罪責について研究しています。嘉門先生の説明はわかりやすく、相談にも気軽に応じてくださいます。

岡本 健太さん

刑法39条にある心神耗弱・心神喪失の責任能力判断における現在の基準は本当に正しいのか、法的・医学的立場を比較しながら検討しています。

荻堂 翔龍さん

胎児の権利について研究しています。そもそも人はいつから人とされるのか、いわゆる人の始期について判例、学説を元に研究しています。

小崎 優さん

適用を間違えると人権侵害にもなる刑法に興味があってこのゼミを選びました。過失犯罪における注意義務について研究しています。

武市 佳樹さん

正当防衛を成立させるための要件について研究しています。仲間と討論しながら研究できるところが魅力だと感じています。

土田 雄飛さん

同意傷害において個人の自由を認めるべきかについて研究しています。違法な行為と個人の自由との関係性を探っています。

寺田 彩絵さん

ゼミ旅行で広島刑務所を見学したのが印象に残っています。一般社会とは異なる空間を自分の目で見たのは貴重な経験になりました。

中島 康輔さん

「安楽死」について刑法的な側面から研究しています。海外の事例と比較しつつ、安楽死が認められるための要件を考えています。

中野 良星さん

性犯罪に関する刑法が改正されたことに注目し、被害者の保護は進んでいるのか、今後はどうあるべきなのかなどについて研究しています。

丸本 絢蘭さん

嘉門先生の人柄に惹かれてこのゼミを選びました。判例を検討しながら、刑法における因果関係の認定方法について研究しています。

柳原 晴日さん

嘉門先生の刑法の授業がわかりやすかったのでこのゼミを選びました。安楽死について研究し、ゼミナール論文を執筆しています。

山本 瑛さん

児童虐待における刑事法的課題と解決策を研究しています。将来は公務員になって子どもが安心して暮らせる社会に貢献したいです。

山本 真夕さん

人格障害者の刑事責任能力について研究しています。再犯防止の観点から、人格障害者への治療の必要性などについて考えています。

吉田 佑香さん

死刑の選択基準について研究しています。現行の基準に統一性はあるのか、裁判員裁判で基準が新しくなるのかなどについて考えています。



黒川 清登
経済学部 教授

開発経済学を開発途上国のみならず、地方と都市の格差の問題として、タイ、フィリピン等と滋賀県の地域開発についてフィールド調査を重視して研究している。

テーマ 「開発経済学と社会経済調査」

黒川 清登ゼミ

●びわこ・くさつキャンパス 経済学部

開発経済学で「都市と地方の経済格差の是正」をすることが究極の目標。開発途上国や滋賀県の農村部に注目し、地域が抱える課題とその解決策を模索している。学内外のゼミナール大会や論文コンテストなどに積極的に参加し、数々の賞を受賞。

ゼミ生VOICE

池永 佳菜子さん

国内外でのフィールドワークの機会が豊富なのが魅力です。

生馬 利洋さん

滋賀県甲賀市をフィールドに、まちづくりや地方創生を学んでいます。

枝元 美帆さん

メディアと災害をキーワードに、それらのあり方を研究しています。

大石 麻由さん

黒川先生は行動力があって面倒見がいいので学生に人気です。

尾上 みかさん

タイでのフィールドワークで地域開発のあり方を現場で学びました。

加藤 優弥さん

開発経済学で貧困地域の環境問題を改善したいと考えています。

河口 育子さん

タイ東北部のまちづくりや地域活性化の研究をしています。

川本 さや夏さん

信楽のお祭りに参加して、PRをお手伝いさせていただきました。

木下 領斗さん

地域の課題を研究して、世界の貧困問題を解決する糸口を探っています。

近藤 弘菜さん

食文化の違いと語学力や海外志向との関連性を研究しています。

十河 孝至さん

地域の会議に参加させていただき、感謝された経験が印象深いです。

高橋 篤生さん

幸福度とまちづくりにどんな関係があるのかを研究しています。

高山 京子さん

将来は開発途上国、特にアフリカの開発に貢献したいと考えています。

竹内 一成さん

福井やフィリピンに訪れ、地域活性化について研究しました。

竜口 七彩さん

黒川先生は非常に物知り、検索するより先生に聞く方が早いです。

CHAO Fan-yuさん

まちづくりを研究し、将来は開発途上国で起業したいと考えています。

中嶋 優雅さん

インフラツーリズムを研究し、学外コンテストに参加しました。

名草 真穂さん

タイと日本の高齢化について比較研究を行っています。

西垣 怜美さん

地域や世界で研究し、学内外のコンテスト等で論文を発表しています。

濱野 遼人さん

タイ研修で現地の学生と共に地域振興について研究しました。

真栄里 嘉那さん

黒川先生が愛情を持って叱咤激励してくれたことが忘れられません。

益富 悠馬さん

経済学部のゼミナール大会で私たちの論文が優秀賞に選ばれました。

益本 佳奈さん

開発途上国を題材に、開発経済学と地域経済学を学んでいます。

松本 帆夏さん

イスラム教徒のハラールと和のおもてなしとの融合を研究しています。

三木 泉佳さん

甲賀市の「都あかり」に参加して、まちづくりに関わりました。

三宅 浩太さん

中国の先例を参考に、日本の電子マネーの未来を探っています。

森山 直輝さん

学生主体のゼミで、授業中も学生の発言の機会が多々あります。

山内 康平さん

黒川先生は学生よりも今どきの機械に詳しくて意外でした。

山崎 優斗さん

滋賀県甲賀市で観光振興について研究し、地方活性化の方法を考えています。

YAO Yuanさん

経済成長が著しい中国の地域開発について研究しています。





川崎 佐知子

文学部 教授

「源氏物語」などの中古文学が、中世や近世の文学や文化にどのような影響を与え、享受されてきたかを追究している。古典籍や古文書・記録の科学的調査なども行っている。



テーマ 「中古文学(平安朝文学)の基礎研究」

川崎 佐知子ゼミ

●衣笠キャンパス 文学部

中古文学(平安朝文学)を正しく読解することが目標。変体仮名・漢字で書かれた写本、その研究成果としての影写・活字資料をもとに、同時代の文献より語の用例や文化的事例を集め、文章全体の解釈を確定し、作品の文学的意義を考察している。

ゼミ生VOICE

飯田 梨紗さん

川崎先生は学生思いで優しい先生です。卒業論文の執筆にあたっては毎週のように研究室に通い、納得行くまで相談に乗っていただきました。

大小田 佳純さん

『源氏物語』に登場する六条御息所という人物について調査しています。六条御息所の歌に使われている表現に注目して研究しています。

木山 蘭さん

『枕草子』第61段から、清少納言の男性観について研究しています。また、「暁」という場面の男女の描かれ方にも注目して研究しています。

清水 大樹さん

川崎先生には卒業論文の添削を何度もしていただき、たいへん感謝しています。学生生活の締めくくりに、楽しく執筆することができました。

杉浦 菜月さん

『源氏物語』における横笛の系譜に注目して研究しています。音楽描写に重要な役割があると考え、物語における効果を探っています。

内藤 圭祐さん

安倍晴明の人物像が平安当時はどのように捉えられ、現在までにどう変化してきたのか、『今昔物語集』を取り上げて研究しています。

西口 晴香さん

『枕草子』における藤原定子の人物像を研究しました。清少納言が藤原定子をどう表現したのか、「里居」をキーワードに探っています。

兵動 知紗さん

平安文学や随筆が好きだったのでこのゼミを選びました。川崎先生は時に厳しく、時には優しく、思いやりを持って指導してくださいます。

正木 充明さん

学生全員に発表の機会があり、先生や仲間から自分とは異なる視点からの意見やアドバイスをいただけるので勉強になります。

増田 桃子さん

主に『紫式部日記』を題材として、紫式部のものの見方や考え方を中心に、平安時代の文学のあり方について研究しています。

百田 周平さん

古典に関心があり、川崎先生の授業が面白かったので、このゼミを選びました。『伊勢物語』の形式について研究しています。

山本 茂樹さん

『枕草子』における中関白家を彩る紅梅という色に注目して研究しています。貴族の権威と色彩との関わりについて探っています。



西澤 幹雄

生命科学部 教授

医師免許を持つ医学博士。基礎医学の立場から、漢方薬/生薬について研究している。生化学と分子生物学を専門とし、細胞内の遺伝子の発現調節に漢方薬が与える影響を解析している。

テーマ 「漢方薬のはたらきを深く調べよう!」

西澤 幹雄ゼミ

●びわこ・くさつキャンパス 生命科学部

日本の伝統医薬である漢方薬は、様々な病気の治療に使われているが、生薬としての作用は不明な点も多い。この研究室では肝臓に良いと言われる生薬の働きを分子レベルで解析し、病気の予防や新薬の開発につなげることを目指している。

ゼミ生VOICE

石井 寿成さん

毎日、論文を読み漁り、先生と議論しながら試行錯誤を繰り返して実験に取り組んでいます。新しい発見があった時に大きなやりがいを感じます。

大西 沙紀さん

西澤先生は授業もわかりやすく、学生向けの著書も執筆されています。ご自身の研究だけでなく、教育にも熱心な先生なので人望も厚いです。

岡田 凌さん

ジャクシという生薬の抗炎症作用について、肝細胞を用いて研究しています。将来は病気で苦しむ人々を助けられるような仕事に携わりたいです。

佐藤 舞里子さん

漢方薬に配合される生薬カシュウの抗炎症作用について研究しています。将来の目標は漢方薬に関する知識が豊富な医療従事者になることです。

SUN Jingさん

日本の漢方薬は安全でよく効くと中国でも評判です。日本の漢方薬と中国の中薬の共通点や違いについて調べてみたくてこの研究室を選びました。

TASKINA Annaさん

線虫という寿命やストレス耐性の遺伝学的解析に適したモデル生物を使って、生薬クコシの寿命や熱耐性等への影響を研究しています。

坪田 朋也さん

植物由来の成分を疾病の治療に応用するという考え方に興味があり、この研究室を選びました。留学生と共に研究できる国際的な環境も大きな魅力です。

DINIA Rizqi Dwijayantiさん

大阪いばらきキャンパスで開催された機能性食品の国際学会で、ベストポスター賞を受賞しました。西澤先生や研究室の仲間のおかげだと思っています。

鳥屋尾 奈々さん

西澤先生主催の国際学会で学生スタッフを経験したことが印象に残っています。外国人の参加者と交流したことで大いに刺激を受けました。

FEBBY Nurdiya Ningsihさん

インドネシアから留学して、機能性食品や生薬の効能を調べています。日本語や日本文化も勉強しながら、忙しくも充実した毎日を送っています。

真壁 鈴佳さん

西澤先生は学生の相談に気さくにに応じてくださるし、生命科学の研究に携わる人間がどうあるべきかを率先して示してくださっています。

水田 友里さん

初めて解剖を見学した時はその繊細さに驚嘆したと同時に、動物の尊い犠牲に感謝し、その上に成り立つ生命科学を真摯に学ぼうと気が引き締められました。

LI Chengさん

中国で薬学を研究していました。留学生の私のために歓迎会を開いてくれて、研究室の仲間が気さくに話しかけてくれたことがうれしかったです。

渡邊 和果さん

論文発表や研究の進捗状況を発表する際には、西澤先生が問題点や改善の方向性を的確に、わかりやすく指摘してくださるのでいつも感謝しています。

※「はじめての研究生活マニュアル」「ゼミたい成功する! はじめての学会発表」(ともに化学同人)





アメリカンフットボール部

主将
鈴木 総司郎さん
スポーツ健康科学部4回生

日本一の栄冠を奪還するだけでなく、
人としての成長も重視しています。

「バンサーズ」の愛称で知られる私たちアメリカンフットボール部は、学生日本一を決める甲子園ボウル、社会人王者と真の日本一をかけて争うライスボウルを目標に日々練習に励んでいます。ここ数年はライバルチームに苦杯をなめさせられましたが、2019年は「Break Through」というスローガンを掲げ、必ず日本一の栄冠を奪還するという強い決意を持って練習に取り組んでいます。

また、私たちはアメリカンフットボール選手である前に立命館大学の学生であること自覚し、「日本一になる」に加えて、「立命館大学の学生として成長する」「尊敬され、支援される選手になる」という目標を掲げています。応援して下さる人への感謝の気持ちを、選手一人ひとりが体現していきたいと考えています。



いつも試合には学生や保護者の皆さまを中心とした大応援団が駆けつけている。熱い声援を受けて、今年こそ日本一の奪還を!



自動車部

主将
齊藤 謙吾さん
政策科学部3回生

部員はほとんど初心者から。
強豪ひしめく全国で活躍を目指す!

私たち自動車部はジムカーナやダートトライアルなどの競技に出場するために、運転の練習や自動車の整備などに取り組んでいます。部員は約30名と他大学と比べると大所帯で、関西の大会では個人・団体共に優勝を経験した実績もあります。目下の目標は強豪チームがひしめく全国大会で入賞することです。ほとんどの部員は初心者で入部してきますが、運転も、自動車の整備も、基礎から学べる環境が整っています。

保護者の皆さまは安全面が気になると思いますが、自動車競技には厳しいレギュレーションがあって、部としても安全対策には万全を期すように心がけています。みんな真剣に、目標を持って活動しているので、応援していただけたらうれしいです。



年季の入った競技車でタイムトライアルに挑戦。エンジンを解体して洗浄するなど、整備も自分たちの手で行っている。

立命館大学では約430のクラブ・サークルが、日々活発に活動しています。
このコーナーでは課外活動に励む学生に、その魅力を語ってもらいます。



鉄道研究会

会長
鈴木 雄介さん
経済学部3回生

鉄道でつながる人と人。
世界が広がるのを感じます。

私たち鉄道研究会は、交通・鉄道に関する研究、機関誌「ポイント」の発行、イベント活動などを行っています。イベント活動では、学内外で鉄道模型のジオラマ展示や、鉄道に関する研究のパネル展示を行っています。地域の子どもたちや鉄道好きの皆さまにたいへん好評で、イベントではいつもたくさんの来場者の皆さまが訪れ、楽しく交流させていただいています。

鉄道研究会の魅力は、学内外でいろいろな趣味を持った仲間と出会えるところです。私は鉄道だけでなく、旅行や写真を撮ることが好きなので、旅行や合宿で仲間と日本各地を巡ることが一番の楽しみです。鉄道を通じて様々な場所を訪れたり、人との出会いを体験したり、たくさんの新しいつながりが生まれています。



学園祭ではお馴染みとなった鉄道模型の特大ジオラマ展示は圧巻。小さな子どもから年寄りまでたくさんのファンが訪れている。



Webで
スペシャル動画を
配信中!



邦楽部

部長
島 瑞希さん
文学部3回生

日本の伝統文化が生んだ和の音色を
より多くの人に届けたい。

邦楽部には箏、三味線、尺八の3つのパートがあり、各自の練習とパートごとの練習、全員が集まって音を合わす全体練習などがあります。大きな目標としては、演奏会などで日頃の練習の成果を披露すること、邦楽の魅力をより多くの人に知ってもらおうことの2つがあります。演奏会では学外のホールを借りて行うこともあり、特に秋の演奏会は先輩の卒業ステージになるので力を入れています。また、邦楽の魅力を伝える活動では、イベントなどで来場者に和楽器に触れてもらって、演奏を体験してもらっています。留学生が体験ブースに来てくれることもあり、和楽器の音色を褒めてもらえる日本人として誇らしい気持ちになります。和楽器は生涯付き合える素敵な趣味なので、ぜひ多くの人に触れてほしいと思います。



日頃の練習の成果を発表する場として定期演奏会を実施しており、観客を招いて本格的なステージで演奏を行う機会もある。



薬学部

北村 佳久 教授

専門——神経薬理学分野

立命館大学には多様な分野の専門家である教員が揃っています。

「知への扉」では最先端の研究に取り組む教員をお招きして、その分野の魅力や可能性について語ってもらいます。

今回はパーキンソン病・アルツハイマー病などについて研究する薬学部の北村先生にご登場いただきます。

創薬や新しい治療法の確立によって、
根本治療が難しい脳の
神経変性疾患を克服したい。

Profile

広島大学大学院医学系研究科生命薬学系専攻博士課程前期課程修了後、北海道大学大学院薬学研究所薬学専攻博士課程後期課程中退。京都薬科大学薬学部准教授、ドイツ・フライブルク大学医学部精神神経薬理学講座客員研究員、北海道大学薬学部文部技官などを経て、本学薬学部創薬科学科教授へ。

老化に伴う疾患を克服して、
健康寿命を伸ばすために。

Q. 北村先生のご専門分野について教えてください。

世界トップレベルの平均寿命を有する私たち日本人にとって、老化や、それに伴い発症リスクが高まる疾患と向き合うことは避けて通れない課題です。脳の神経細胞は再生が難しく、成人になると老化に伴って徐々に神経細胞死が引き起こされることが知られています。さらに、特定の脳領域に病変や障害が生じるとパーキンソン病やアルツハイマー病などの神経変性疾患を発症します。私はこれら2つの疾患について研究をしており、発症を予防あるいは遅延させる予防療法や予防薬の研究、発症した場合も症状の進行を遅らせる、あるいは症状を緩和する治療法や治療薬の研究に取り組んでいます。

プラナリアの再生能力を応用し、
脳神経細胞の損傷を修復したい。

Q. 人類がそれらの疾患を克服できる日は来るのでしょうか？

残念ながらパーキンソン病も、アルツハイマー病も、根本的な治療につながる薬はまだ見つかっておらず、現状行える治療は対症療法しかありません。しかし、夢の根本治療につながる研究の一つとして私が取り組んでいるのが、プラナリアという生物を使った再生医療の研究です。プラナリアは2個に切断されれば2匹に、10個に切断されれば10匹に再生する不思議な生物です。人間と同じような神経細胞もありますが、それを潰されても各個体で再現できる高い再生能力を備えています。私はこのプラナリアの再生のメカニズムを解明し、人間の脳神経細胞に応用できないかと考えています。私たち人間にはもともと再生能力が備わっており、例えば生体肝移植のためドナーの肝臓の3分の2を切除しても、時間と共に肝臓は元の大きさに戻り、機能も元通りに回復します。プラナリアの高い再生能力を人間の脳に応用し、遺伝子の記憶を呼び起こすことができれば、再生が難しいとされる脳神経細胞の損傷も修復できる日が来るかもしれません。



研究室で培養するプラナリア。かわいい見た目と不思議な生態でキャラクター商品化されることも。

一歩ずつでも着実に前進していけば、
夢の未来にもたどり着けるはず。

Q. どのような想いで研究に取り組んでおられますか？

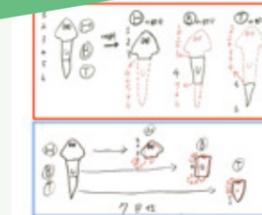
私の大学時代の恩師はパーキンソン病を罹患しましたが、私には進行を遅らせる薬を作ることはできず、残念ながら恩師を救うことはできませんでした。そして数年前にはアルツハイマー病を罹患した父を亡くしています。恩師と父の病気には間に合わず、私自身もいつミイラ取りがミイラになる日が来るかわかりません。しかしながら、創薬の研究はたとえ歩みが遅くとも、一歩ずつ進んでいけばいつか道が開けると私は信じています。プラナリアの研究からいつの日かヒトが再生能力を有して、病気や怪我を克服した「ホモ・サピエンス・プラナリアン」に進化する可能性だってあるわけです。そんな夢を描きながら研究できるところに大きな魅力を感じています。

薬の多様性と普遍性への理解を深め、
未来を変える知恵を出し合おう。

Q. 学生にはどんなことを期待しますか？

理系の研究は孤独で寡黙なものイメージがあるかもしれませんが、薬学部の研究は一人ではできません。将来、薬剤師になる学生は医療チームや薬局メンバーと密にコミュニケーションをとる必要がありますし、創薬研究においてもプロジェクトメンバーとのチームワークが大切になります。研究室の学生には、まずは元気にあいさつをするところからはじめ、相手の話を理解する能力、自分の考えを相手に伝える能力など、コミュニケーション能力を高めるように指導しています。薬は私たちの健やかな暮らしに必要なものである一方で、使い方次第では毒になってしまう表裏一体の存在でもあります。薬学部では実際に薬害で苦しむ患者の方の講演を聞くなどして、薬の怖さについても知ってもらいます。学生には、薬の多様性を知り、普遍の原理への理解を深めながら、健全で活発なコミュニケーションのもと、病気を克服するための知恵を出し合ってくれることを期待します。

先生の横顔



先生のお子さまも小学生の時にプラナリアの研究に挑戦。上が再生プロセスの予想で、下が実際の観察結果。小学生とは思えないつづなな観察は見事。

CAMPUS WALK
キャンパス
探訪

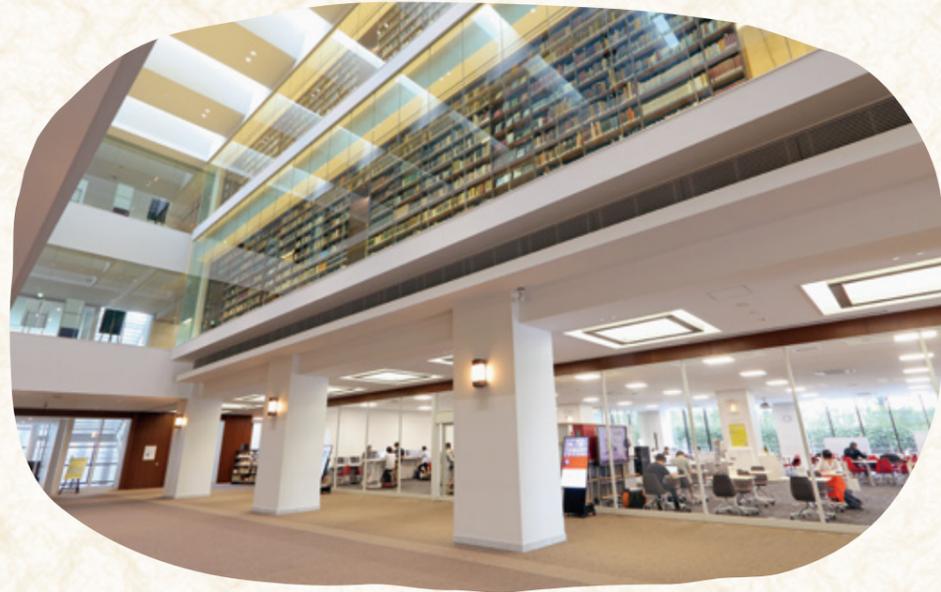
Vol.1

衣笠キャンパス編

落ち着いた学習環境で
学びを深められます。



平井嘉一郎記念図書館



衣笠キャンパスに誕生した、
先進的なアカデミックシンボル。

2016年に誕生した「平井嘉一郎記念図書館」は、衣笠キャンパスの新しいアカデミックシンボルとして学生に好評です。150万冊の蔵書、2,000席の閲覧席、洗練された学習環境など、知の拠点にふさわしい環境を整えています。



ラーニングcommons「びあら」は開放的な空間でグループディスカッションやプレゼンテーションをすることができます。



食堂

6つの特色ある食堂が、
学生の胃袋を支えています。

衣笠キャンパスには6つの生協食堂があり、それぞれに個性のあるメニューを提供しているので学生にはうれしい限りです。栄養満点でおいしいメニューをリーズナブルな価格で提供しています。

「できた亭」のお弁当は
行列ができるほど人気。



量り売りのサラダバーなど、学生の健康に配慮したメニューも用意されているので、栄養が偏りがちな下宿の学生も安心です。



ご当地グルメフェアなどで
飽きないメニューが豊富。



マルチメディアルーム



パソコンを使って自習ができる施設。

衣笠キャンパスでは、洋洋館と尽心館にあり、情報教室と同じ環境が提供されていますので授業の予復習や課題作成などに使われています。



トレーニングルーム



本格的なボルダリングウォールも設置。

一般学生も使えるトレーニングジムを設置。

衣笠体育館には本格的なトレーニングルームがあり、体育会の学生だけでなく、一般学生も無料で利用することができます。筋トレやダイエットにおすすめです。



東側広場



学園祭などのイベントでは野外ステージに早変わり。

ピクニック気分でくつろげる開放的な空間。

人工芝が整備された東側広場。暖かい季節には多くの学生がランチをしながら、仲間との団らんのひと時を楽しんでいます。かつてはこの場所に衣笠図書館がありました。



学生会館



課外活動団体の部室や練習の場として活用。

学生会登録団体の拠点施設です。音楽や演劇の練習ができる防音施設やBOX(部室)、茶室、能舞台などがあります。1階にはパフェが人気の「caféゆんげ」が入っています。



BBP



異文化交流や語学学習のために国内外の学生が訪れます。

Bordersを乗り越える国際交流拠点。

Beyond Borders Plaza(BBP)は国境の壁、文化の壁、言葉の壁など様々なBordersを越えてつながりを生み出しともに学ぶ、国際交流や言語学習を中心としたグローバル・commonsです。



保健センター



私たちが健康を
見守ります

キャンパス内に医師が常駐。

志学館1Fには保健センターが設置されており、父母教育後援会の補助で、学生は無料で受診することができます。

Letters from graduates

卒業生からの手紙

●七通目●



京北地域に移住して活動中

世界を見て回ったことで、地域のあり方を考えるように。

私が立命館大学の国際関係学部に入ったのは、将来は世界平和に貢献できるような仕事に就きたかったからです。紛争や貧困問題の解決に関心を持っていました。国際政治や平和学を学ぶ一方で、実際に発展途上国と呼ばれる国の現状を自分の目で見たいと思い、長期休暇中に世界各地を訪れました。異文化を持つ国の人々の暮らしにも興味があり、立命館大学で仲良くなったイラン人留学生に母国を案内してもらったり、ボランティアでタイの山岳民族の家にホームステイしたりしました。その中で感じたのは、私が見て回った国や地域は、これから経済発展を遂げてどうなっていくのだろうか、より幸せになるのだろうかという疑問です。経済発展を遂げることばかりが幸せとは思えなかったし、裕福な国と言われる日本もストレス社会など様々な問題を抱えています。それならば、日本がもっと居心地のいい社会になって、お手本になるような国に成長すれば、世界にもいい影響を与えられるのではないかと考えるようになりました。それまでは日本の「外」にばかり目を奪われていましたが、「内」に目が向くようになり、「まちづくり」や「日本の社会問題」といったキーワードに関心を持って学ぶようになりました。

立命館大学では京北地域と連携して「京北プロジェクト」という地域振興活動や、生協での京北フェアを実施しています。また、東側広場では「京北マルシェ」のキッチンカーが来て、京北の手作り弁当や新鮮野菜などを食べられるため、学生にも京北の認知が広がっています。地域に関心を持った私が、そこにお話を聞きに行ったことが、京北地域とつながった最初のきっかけでした。

地域貢献の活動が生み出す未来に、私なりの答えを見つけたい。

現在、私は地域協議会に所属し、京北地域と都市とを結ぶ活動をしています。地域の問題を考える上で「よそ者」では信頼を得られないと考え、実際に京北地域に移住してここに住む人々の声に耳を傾けながら活動しています。京北地域の魅力を発信したり、地域が抱える課題を解決することが私の仕事で、その一環で行っているのが、立命館大学の100円朝食で野菜スープを提供する活動です。これは京北地域で穫れる規格外の野菜（その多くは廃棄されます）を活用して、食生活の乱れがちな大学生に美味しい京野菜を使ったごはんを届ける取り組みです。双方の問題解決につながる面白いアイデアなので、これからもっと盛り上げていきたいと思っています。

大学を卒業して企業に就職するという選択肢もある中で、京北地域に移り住んでこういう活動に取り組むことは私にとって大きな挑戦でした。まだ挑戦は始まったばかりで、今後どうなっていくかは私自身が模索している最中ですが、大企業に就職することが必ずしも安定や幸福につながるとは限らないという認識が生まれている中で、私のような働き方も一つの選択肢として、モデルケースになれたらいいと考えています。ありがたいことに両親は私が思うように生きればいいと応援してくれています。たくさんの人の支えのおかげで私は今ここにいるので、京北地域の未来、これからのまちのあり方、そして世界平和について、私なりの答えが見つかるようにがんばっていきたくて考えています。

“Think globally, act locally”

世界平和という大きな課題のために、京北地域から未来を発信したい。

NPO京北コミュニティビジネス 上桂川地域活性化協議会

鈴木 奈月さん

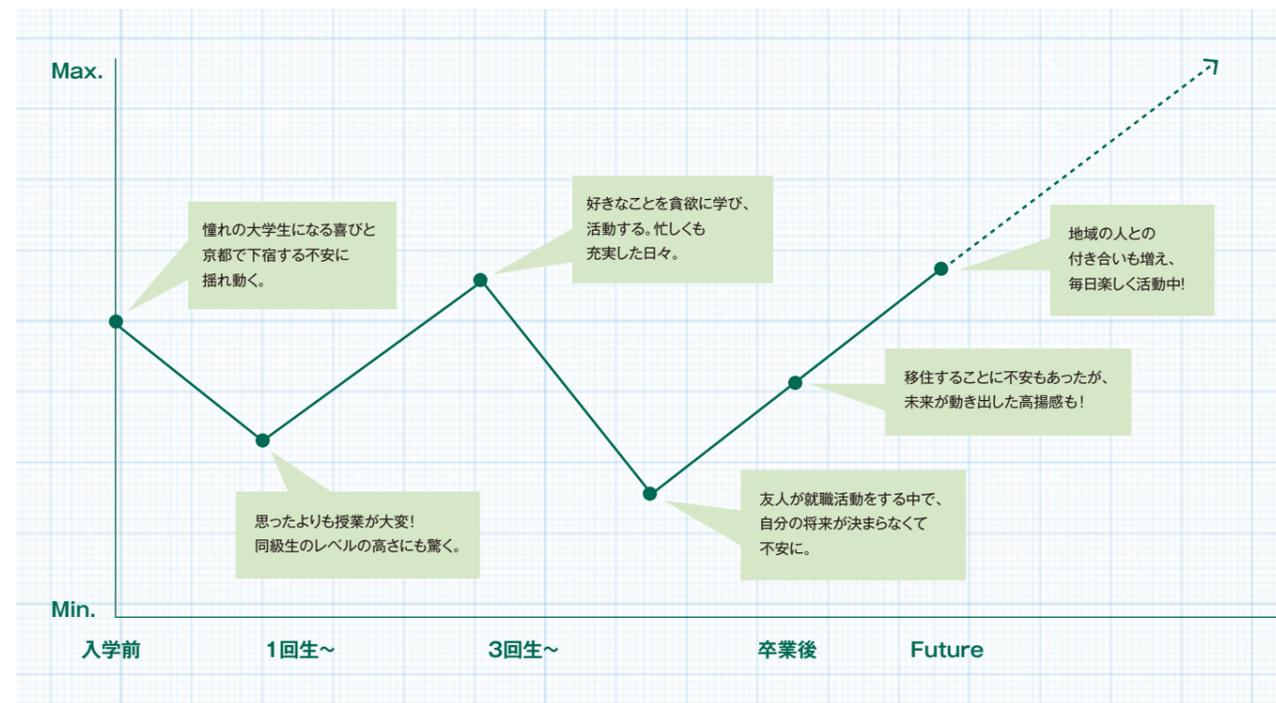
2017年3月国際関係学部卒業
静岡県出身



Profile

静岡県から立命館大学の国際関係学部へ。世界に目を向けて学んだことで、地域の課題に注目するようになった。卒業後は京北地域に移住して、地域の人々と対話しながら持続可能なまちの発展を考える。

紆余曲折グラフ



あるある

●第4回MISSION●



探検隊

日本に2つしか残っていない
陪審法廷を調査せよ

衣笠キャンパスには、日本に2つしか現存しない
陪審法廷が設置されているという情報を入手した。
2代目隊員となった関隊員がその調査に向かった。

PROFILE



関 倫花 隊員
文学部 4回生

今回から2代目隊員となった
文学部の関さん。立命館大学
放送局 (RBC) で鍛えたレ
ポート力は折り紙付き。



今日は衣笠
キャンパスに
ある陪審法廷
の調査にやっ
て来ました



末川記念会館の
中にあるって
聞いたけど…

ホント？



ホントに
あったー！



でも
なんで？



私が説明しよう！



なんでも知ってる
クボタさんだ！

これは京都地裁に
あった陪審法廷を
復元移設したもの
なんだよ

コレが日本に2つしか現存しない
陪審法廷だ！



とってもイゲンがある！

京都地方裁判所にあった陪審法廷を法学教育に熱心な立命館に復元移設。

1928年から15年間、日本でもアメリカやイギリスで採用されている陪審制が導入されたことがあります。衣笠キャンパス末川記念会館にある陪審法廷は、京都地方裁判所にあったものを復元移設したもので、法務省によると現存する陪審法廷は日本に2つしかないそうです。12人の陪審員席、上下の位置関係にある検事席と弁護士席など、当時の陪審制の様子を垣間見ることができる貴重な資料館となっています。



立命館 史資料センター調査研究員
久保田 謙次さん

たいへん貴重な
資料館なので
一般の方も無料
で見学できます



日本の陪審制の歴史について、映像と音声で
解説してくれます。

今回の発見

- ・日本にも陪審制があった！
- ・陪審法廷が残っているのは日本に2箇所だけ！



学生は自由に見学
できるので、法学
部以外の学生も見
ておくべき！

プレゼントクイズ

Q. 陪審法廷のある末川記念会館地下のレストランの
名称は何でしょうか？

ANSWER

レストラン ○ ○ ○

ヒント カタカナ3文字



立命館のロゴ入りCROSS製
ボールペンをプレゼント！

応募は
Webから！



立命館 父母教育後援会

検索



日本の古代史、宗教史を研究する文学部の本郷先生が、
衣笠キャンパスがある京都の
歴史にまつわる様々なエピソードをご紹介します。

山城の風土記

黄昏時の八坂の塔

新シリーズ：序章

京都はいくつもの顔を持つ不思議なまちである。

延暦十三年(794)、この地に都を置いた桓武天皇は、平安京と命名した。それまでの都の名称が地名に拠ったのに対し、新都と新たな時代への思いがその名に込められたのである。同時に、都の位置する国名の用字も、かつて都が置かれた大和の地から見て山の背後にあることを意味する山背国から、堅固なイメージを持つ山城国へと改められた。それ以来、「千年の都」と言われるように、天皇や皇室の本拠たる都として今日に至っている。明治維新时期に日本の首都としての機能は東京に移ったが、正式に東京遷都の詔が出されておらず、「今日でも正式の都は京都」と確信している京都人も少なくない。確かに、大正・昭和天皇の即位の儀礼は京都で行われ、今上天皇即位の際も話題になったが、結局初めて東京で行われた。そして、間もなく迎える新天皇の即位の儀礼も、やはり東京で行われる。

悠久の歴史を誇る京都。しかしながら、今日京都の中心部で、平安時代の名残を目にする事はほとんど不可能である。「醍醐寺や平等院といった古刹に、平安時代の建造物が遺っているではないか」と指摘する向きもあるかも知れないが、これらの寺院は平安京の外域に位置している。もともと、平安遷都の際に、東寺・西寺のような一部の例外を除き、新たな寺院の建立は認められなかった。その後も、天皇・皇族や貴族の発願した寺院は、平安京の外域に建立された。京域内に相次いで寺院が建立され、今日の如き多くの仏閣が建ち並ぶ京都が出現するのは、中世以降の事であった。

遷都以来1225年の間にさまざまな出来事があり、その都度京都の顔を変えてきた。特に、京都に大きな被害をもたらした、様相を変貌させたのが、15世紀後半に生じた応仁・文明の乱である。建造物の多くが被害を受け、平安京の機能のみならず、そこに住まいする人々の生活も一変した。しかし、多くの伝統が失われる一方で、新たな文化が出現する。今日、日本の伝統文化として認識されているものの中には、

この時代に創出され、或いは整備・発展したものが少なくない。畳敷き床の間付の和室、能楽や狂言といった芸能、そして立花等々、全て、中世後期の産物である。

京都の町自体も、戦国期を経て豊臣政権の時代に、秀吉により新たな町造りが進められた。一部残存する御土居という土手や、鴨川に沿って寺院が並べられた寺町、そして、新たに小路を設けて整備された町並みなどは、その時の名残である。この新しい京都も、中心部は、幕末の動乱で大きな被害を受けた。元治元年(1864)に長州藩と会津・桑名等の藩が交戦した蛤御門の変(禁門の変)の際に、京中に戦火が広がり、二万八千余戸が焼け出された。現在の京都御所の近辺から、烏丸六条・七条の東本願寺に至るまで、風に煽られて火の手が覆い尽くしたのである。京町家として親しまれる家屋も、中心部に位置するものの多くは、この変の後に建てられたものである。

京都には、古き良き伝統を重んじながら、一方で新しい風潮に敏感に反応する、独自の風土があるという。今日に至るまでに幾多の変遷を経た経験が、そのような趨勢を生み出したものと言えよう。

今なお、特異な雰囲気を出す京都。海外からも、日本の顔として知られる京都。この京都を含め、山背(城)国の往昔には、今日の日本の原点とも言うべき、さまざまな要素が遺されている。今年度は、衣笠キャンパスの位置する山背(城)国の往昔を、見てゆくことにしたい。



Webで連載企画を
毎月更新中!



文学部
本郷 真紹 教授
専門分野: 日本古代史

読者の声

皆さまのお声が
誌面を作っています。

キャンパス紹介を毎号少しずつでもいいので掲載してほしいです。まだまだ知らないところがいっぱいあると思いますので。

医療費の補助制度がとてもありがたいです。去年、娘が風邪をひいたときに、お世話になりました。まだ、病院の立地がわからないときだったので本人も安心だったようです。長く続いていくことを望んでいます。

知への扉はいつも興味深く拝見させてもらっています。卒業生からの手紙もいつもうなぎながら読んでいます。

卒業生に京都の伝統工芸である西陣織を使ったオリジナル袱紗をプレゼントするのはとてもいい取り組みだと思います。今後使う機会があるものですし、Rのロゴが入っているのも良いですね!

毎年アカデミック講演会を楽しみにしています。子どもが指導を受けている先生のお話が聞けるので、学生気分ですんでいます。

父母教育後援会だよりをいつも楽しく拝見しています。改めて学内には素晴らしい先生方がいるということを知ることができました。学生の皆さんにとって、この上ない環境です。便りの少ない息子の学生生活が充実したものになるよう願っています。次回のアカデミック講演会にはぜひ参加したいと思います。

家計急変奨学金の受給者の方の声を読んでとても感動しました。退学者0名というのも素晴らしいです。未来ある方々が学べなくなるのはとてもつらいことです。父母会の力がとても大きく感じました。これからも学生の方々の支えであってほしいと願います。

昨年、初めて1日キャンパスに参加して、とても良かったです。一人で参加しましたが、同郷の保護者同士ということもあり、すぐに打ち解けて楽しい時間を過ごすことができました。特に地元でのUターン就職を考えているため、そちらの情報も知ることができてよかったです。今年もぜひ参加しようと思っています。

卒業見守り共済はとても良い取り組みだと思うので、在学生の保護者の皆さまに理解していただき、みんなで運用できることを願っています。

100円朝食がとてもありがたいです。下宿させているので食の心配はつきませんが、100円朝食のおかげで毎朝元気に通学できているようです。ありがとうございます。

ひろがる“立命館ファミリー”のネットワーク

立命館大学校友会は立命館大学の卒業生(校友)の同窓会組織で、会員数は約36万人を数え、国内には52の都道府県校友会があります。

都道府県校友会では、卒業生だけでなく、在学生父母や卒業生父母の皆様も一同に集おうという取り組みも行われています。静岡県、奈良県、宇部小野田(山口県)、香川県、熊本県、宮崎県などでは、地元へのUターンやIターン就職を目指す学生とその保護者を対象に、卒業後の進路や就職活動、学生生活なども含めた有益な情報交換等を目的とした企画が開催されています。

このように全国各地で、“立命館ファミリー”のネットワークが広がっています。



2019年2月 第2回立命館大学奈良県ファミリー会の様子